

日本テスト学会 第8回研究会「公開シンポジウム」

『テスト実践場面における重要課題の解決策を探る  
- テスト項目の再利用と項目内容の開示の是非 - 』

## 「TOEFL/TOEICにみる問題非公開の事例」

2007年12月22日

於:東京大学駒場キャンパス



株式会社ライトハウス・坂井 修

# 1. 能力テストは原則非公開

---



## (1) TOEFL/TOEICは能力テスト - norm referenced test

\* 日本で通常言われている「集団基準」と多少相違があり、能力をきちっと測定された集団を基準として評価している。

- ・ criterion referenced test・・・Language Proficiency Interview (LPI)

## (2) テストの主な種類

- ・ 習熟度テスト (Achievement Test)
- ・ 適性テスト (Aptitude Test)
- ・ 診断テスト (Diagnosis Test)
- ・ 能力テスト (Proficiency Test)

## (3) 目的によるテストの利用

## 2. 能力テストは尺度が一定

---



(1) TOEFL/TOEICは何回受験しても一定の尺度でスコアがでる

・ equating

(2) TOEICのテスト管理

- ・問題作成は主に外部の問題作成者が作る
- ・専門家が精査して約半分は捨てる
- ・過去の問題を混ぜる (equatingのため)
- ・不適切な言葉をチェックして排除する (sensitivity review)

< 試験実施 >

- ・問題一問ずつの良否をチェックする
- ・数種類の統計処理をして正答数とスコアの変換式をつくる
- ・変換式によってスコアレポートを作成する

## 3 . ETSの歴史

---



### (1) 以前の環境

- ・ばらばらに行われていた大学入学試験
- ・地理的に現地受験は大変でよい学生が集まりにくい

### (2) 全米大学入学委員会(カレッジボード)の誕生(1900年)

### (3) 統合的組織 / ETSの誕生(1947年) = テストの科学を追及

- ・SAT (Scholastic Aptitude Test)の誕生(1926年)
- ・基礎能力は高いが勉強をしないので成績が悪い人を見つけ出す
- ・言語理解力、数学、論理的思考力を測る: 英語と数学
- ・SATスコアは入学決定要素の30 - 40%
  
- ・コンピュータの発達が追い風に - IBMが機会採点方法を開発
- ・テストのフェアネスを追及
  
- ・TOEFLの開発
- ・TOEICの開発

## 4 . TOEFLはなぜ成功したか

---



### (1) TOEFLの成功 = 受験しないと留学できない

- ・カレッジボードを中心に大学側の採用とETSの技術力
- ・受験者のための安全弁 = 北米の大学に留学してもきちっと授業が受けられるかどうか、無駄な時間と金を使わないように各自の能力を事前にきちっと測る
- ・コンピテンシー・モデルが明確
- ・目標スコアが明確だった(500 - 550 - 600)
  
- ・TOEFLの進化はどこまで正確に能力測定ができるか？

### (2) 日本におけるTOEFL

- ・大学の英語教員がTOEFLで留学経験があり、指導しやすかった
- ・TOEFL = 大学で学ぶ英語として解釈できた
- ・TOEFL / ITPで入門学習ができた
- ・企業はTOEIC, 大学はTOEFLという概念があった(以前)
- ・留学しない人も受験した

## 5 . TOEIC成功の歴史

---



### (1) TOEIC成功の理由

- ・テストプログラムが優秀
- ・…正確なインタビューテスト(LPI)との高い相関が裏づけられた
- ・他に競合が無かった(ビジネス社会で)
- ・テストの結果に企業が納得した
- ・円高等による急速な国際化と80年代の好景気が後押し
- ・企業にとって都合のよいツール

### (2) 問題非公開を補完したマーケティング手法

- ・「コミュニケーション英語」の概念を啓蒙(知識からスキルへ)
- ・スコア・インタープリテーションを工夫 = TOEFLとの相関(当時)
- ・…TOEFL 500 = TOEIC 600 = 海外出張レベル  
TOEFL 550 = TOEIC 730 = 海外駐在レベル
- ・パート別の正答率と合計スコアのバランスをレポート
- ・模擬問題集の出版を支援して、試験 = 対策という要求に応えた
- ・大学にも普及活動をして、社会で使える英語をアピール